横浜市小学校社会科研究会

５学年部会

研修会記録

第　７　号

令和元年　　１月　８日
横浜市小学校教育研究会
会長　　榮　　秀　之
横浜市小学校社会科研究会
会長　　新　井　　篤　志
同　学年部長　　加　藤　沙　智　子

【提案日時】
１２月　４日（水）

【会　場】
横浜市立西富岡小学校

授業　森　圭一朗先生（西富岡小）
司会　生方　由起先生（高舟台小）
記録　山口　暁風先生（小田小）

〇単元名：情報を生かして発展する外食産業～ビッグデータを活用する回転寿司店S～

〇授業者より

視点①

・売り上げ１位をキープしている事実が、情報活用の意味に迫るエネルギーになっている。

視点②本気の学習問題について

・総合管理システムの学習に２時間かかり、理解するのが難しかった。
　→以前の廃棄量を見て、子どもが「あれは何とかしなければならない」と考えた中で、総合管理システムの影響で、廃棄量が４分の１に減った事実がよかった。
・実際は、店長の判断で寿司ネタを決めているという矛盾から本気の学習問題が生まれた。
　→「ビッグデータをどのように活用しているのか」「見えにくいことをどう捉えるか」に迫りたい。

〇協議内容

・教材が子どもにとって身近だったため、本気になれた。
・資料について、難しい内容で量も多かったが、１つずつ順序立てて出すことで子どもが解決していけた。
・資料の読み取り時間の確保が必要だった。
・「情報活用＝総合管理システム」を理解していたか。
・システム側か店長側か、どっちの立場か明確であった。
・今までの学習を根拠にしながら話す姿や子ども同士の聴き合う姿がよい。
・単元を通して、廃棄量の多さを捉えさせたことで、危機感を感じ、本気になれていた。
・子どもの思考の流れから、子どもが欲しいと思う資料のみを出していた。

＜講師の先生より＞

國學院大學　特任教授　小笠原　優子　先生

・「自分の考えを話したい」と思えているところがすばらしい。
・森級のような、授業の合間などに学習問題について調べられる子を育てたい。
・情報の学習で、販売の工夫にいきがちであるが、販売の学習ではないということを留意し、明確にする。
・単元目標が、「情報と産業の関わり」であるため、産業の発展を考えさせるために、新しい情報をどのように活用していくか考えた方がよい。
・１つの産業に限らず、２つ３つの情報について活用している事例を取り扱えるとよい。

南部教育事務所　主任指導主事　赤羽　博明　先生

〇研究会について
・インパクトの強い資料提示とはどのようなものか、細分化する必要。
・研究部として、子どもの「ずれ」を明確にして、市研として提案する必要。
・「見通しがもてる」を細分化する必要。
・指導案の「教師のみとり」がのちの実践につながるヒントになる。研究部で集約し、拡散するとよい。
・協議会で資料のタイミングを検証することは難しい。

〇本日の授業について
・情報学習では、情報を活用している農業・工業・漁業（既習事項）にも触れていく必要。
・予想→検証→考察・まとめ　という授業の流れを大切に。
　多角的な予想と考察がリンクしているかどうかが大切。
　検証では、予想が合っているかどうか。新しい発見があるかもしれない。
・今日の授業のように、予想の解決の一助となるような資料を（みんなで）用意する必要がある。
・まとめ…システムを人が有効に活用していることは迫れていた。
　　「他の産業（農業や漁業）ではどうかな」と発問するのもよいのではないか。

文責　　加地　亮祐　　（　新鶴見　小学校）